

読売新聞 きょう（1月8日）のイチ押し

1面・3面 オミクロン株流行で行動制限緩和見直し

政府は、沖縄、広島、山口3県への「まん延防止等重点措置」の適用を決定したのに合わせ、基本的対処方針を改定しました。ワクチン・検査パッケージ制度の活用を前提に行動制限を緩和していましたが、感染力の強いオミクロン株の流行を受け、再び強化に転じました。

- ★ 政府は昨年11月、緊急事態宣言下でもコロナ対策と経済活動が両立できるように、ワクチンを2回接種するか、検査で陰性が証明された人については、パッケージ活用を条件に、飲食店や大規模イベントの人数制限を撤廃できるよう基本的対処方針を改定しました。
- ★ しかし、オミクロン株はワクチンを接種していても感染することが科学的に判明しています。このため政府は、知事の判断で、パッケージを使わずに、「参加者全員」の陰性証明提示で人数制限を緩和することを認めました。ただ、全員の検査には限界があり、実質的に制限緩和の基準は強化されることとなります。

3社面 「新婚さんいらっしゃい」の司会・桂文枝さん勇退へ

人気の長寿テレビ番組「新婚さんいらっしゃい！」で、放送開始から半世紀にわたって司会を務めてきた落語家・桂文枝さん（78）が3月27日の放送を最後に「卒業」することがわかりました。番組は、後任をたてて継続します。番組は1971年1月に始まり、以来、文枝さんが登場する新婚カップルを「いらっしゃい」のギャグで出迎え、トーク中に椅子から転げ落ちるパフォーマンスが名物になっていました。放送回数は2500回を超え、同一司会者によるトーク番組の最長放送としてギネス世界記録にも認定されていました。勇退を発表した記者会見で、文枝さんは「感謝しかない」と涙ながらに話しました。

他紙と比べて

毎月、旬のニュースをわかりやすく伝える「New門」の新シリーズが解説面（11面）でスタートしました。初回は、世界で愛されている「和食」の魅力に迫ります。1週間連続で、様々なニュースのポイントを解き明かします。ご期待ください。